

愛する森

チャーチャー

マングローブにとっても興味を持っている。

私は2003年4月5日にFREDAのマングローブプロジェクトの一員となった。この地域のマングローブ林は当時、構成的に豊かで緑あふれる状態だった。2005年以降、不法伐採により徐々に劣化が進んだ。伐られたマングローブを見るとひどく悲しかった。それらの一部は私たちが植えた木だったからだ。

一本の木が生長して大きくなるのは、思うほど簡単ではない。そのことを皆にわかってほしい。だから、それを知るために自ら木を植えてもらいたいのだ。

実際、マングローブは人間にとって大変役に立つ。私は本当に木を愛している。木を伐る人を憎むし、そんな人間を罰したいとも思う。マングローブは自然災害から私たちをしっかり守ってくれる。もし、木々を愛することができるなら、私たちは木々から多くの恵みを受けるだろう。子どもたちには、ぜひ、マングローブ林に関心を持ってほしい。若い世代がマングローブ生態系の価値を知らなければ、やがて森は消滅するに違いない。私たちは日々の糧を得るのに大きな困難と向き合うことになる。もしマングローブが過剰に伐採されてしまうと、魚やエビ、その他の海洋生物が枯渇する事態になる。

加えて、木々は私たちが生存のために呼吸する空気を浄化してくれる。木々は多くの有意義な恩沢を私たちに与えてくれるのである。もし、マングローブを保全しなければ、地球温暖化のような不利益が近い将来に深刻化する。そして気候変動が引き起こされ、人類の存続自体が脅かされるのだ。マングローブが根こそぎ消失したところは、サイクロン・ナルギスによって壊滅的な被害を受けた。

だから、私は全ての人々が私たち人類自身のために、急ぎマングローブを育てるよう強く勧めたい。

余談になるが、私はFREDAがマングローブ植林を行っているオッポクウィンチャン村で今の妻に出会った。一緒にマングローブを植え育てているうち、お互いに好意を持ち、恋に落ちた。そして、水掛け祭りのとき、彼女と結婚した。私は後の妻となる少女に逢うチャンスをくれたマングローブに、心から感謝している。

(FREDA スタッフ、ミャンマー・オッポクウィンチャン村在住)